

Title	学習指導案の設計・共有支援を目的としたSNS開発
Author(s)	安藤, 俊明
Citation	
Issue Date	2011-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/9658
Rights	
Description	Supervisor:長谷川 忍, 情報科学研究科, 修士

学習指導案の設計・共有支援を目的とした SNS 開発

安藤 俊明 (0910801)

北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科

2011 年 2 月 8 日

キーワード：学習指導案，SNS，学校教育現場，教材研究

コンピュータ機器の利便性向上とその利用分野拡大に伴い、国内の学校教育現場において、教材の媒体をはじめとした ICT (Information and Communication Technology) の利用が一般的になっている。今日では ICT のメリットを意識した、教育現場における新しい取り組みが数多く提案・報告されている。具体的には、授業で利用する黒板やノートなどといった既存の媒体の発展的な代替手段として活用するアプローチが挙げられる。しかしながら、初等中等教育において、学校教員(以下、教員と呼ぶ)が授業に向けてあらかじめ準備した指導内容を教室で実践し、そのことが生徒の理解度に大きく影響するという本質的な側面に対して ICT を活用する包括的なアプローチは現状も十分でない。そこで筆者らは、教員が授業に向けてあらかじめ準備した指導内容が示されているものであり、なおかつ教員であれば必ず設計することができるであろう学習指導案に着目した。そして、筆者らは教育の質を高めるためにこれまでの学習指導案の設計法を見直し、新しい価値を再発見することに重点を置く ICT 活用方法を提案する。

日本の初等中等教育現場における教員は、教材研究を行うための時間を確保することが困難であり、自分の受け持つすべての授業に対して学習指導案を設計・活用することも困難である。近年は教員が学校内で教材研究のために利用できる時間はより一層少なくなっているとともに、学外においても教員間で情報の交換を行うことができる時間はごく限られているのが現状である。これらの問題は、通常業務の多忙さをはじめとしていくつかの要因に起因すると思われる。現職の教員に対して行われた学習指導案設計に対する調査によると、教員の学校内での立場やパーソナリティによって違いはあるものの、共通して学習指導案設計のために長時間を要することや、設計後の学習指導案が有効活用されていないという意見が多いということが指摘されている。そこで本研究の目的は、授業の質向上を目指す教員に対して、少ない負担で学習指導案を設計・共有するための手法を提案することにある。このような教員の質向上を実現させるためには個人で学習指導案を設計するだけでなく、複数人の目に触れてより良い学習指導案を設計することができる場や、教員同士でそれらの情報交換を行う場が重要であると考えている。

ごく近年、Web の利用目的がメールやブログからソーシャルメディアの利用へ推移してきている¹⁾。とりわけ、趣味や共通のテーマを中心としてメンバーが集まり、コミュニティを構築して利用する SNS (Social Networking Service) と呼ばれる Web サービスの利用が活発になっている。SNS ではユーザフレンドリなインタフェースを利用し、容易な情報の送受信

を可能とする。これにより、知識の蓄積・共有が発展的に繰り返し行われている。また、ユーザ登録や匿名での利用を可能とすることでコミュニティへの参加を容易なものとしているものが多くみられる。しかし、教員が SNS を積極的に利用できるかどうかについての報告は現時点では十分には無い。そこで本研究では、教員がどのように SNS を利用するかを想定するために、UCD (User-centered Design) の分野で活用されているペルソナ (Persona) を利用する。ペルソナは Web サイトがターゲットにするユーザの例を表現するものであり、実際に教育現場で活躍する教員たちが今回の提案システムをどのような場面で活用できるかイメージしやすくするために用いる。

本稿では学校教育現場において活躍している現職の教員を対象として、校種や学校間という枠を超えて、学習指導案・情報交換・蓄積できる場を Web 空間上に構築することを目的としている。そのためにまずペルソナを活用し、本サービスを利用しそうな教員像を仮想的に想定する。そこから浮かび上がる利用ニーズに基づいて学習指導案を教員コミュニティの共有財として活用するためのプラットフォームを、SNS を利用したアプローチで提案する。さらに、教員が必要とするニーズの他に学習指導案を中心として教員の教材研究活動を促進する機能を実現することにより、これまで活用される機会が少なかった学習指導案の位置づけを見直し、教員間での共有材とすることで教育の質を高めることを目指した。

システムの構築にあたっては、特殊なユーザの利用環境を必要とするものを避け、極力一般的な環境から容易にアクセスできることを意識して設計した。システムの有効性を評価するため、現職教員にシステムの利用した学習指導案の設計を依頼し、実際に学習指導案を設計してもらった。その結果、提案システムを利用することで学習指導案設計に要する時間を短縮できることが確認できた。